

多賀城創建1300年!

今年が多賀城創建1300年の記念すべき年です。1300年前に大野東人によって創建、陸奥国府と鎮守府が置かれ、奈良・平安時代における東北の政治・文化・軍事の中心地になったわけです。約1キロ四方の広大な城内に重要な政務や儀式を行う政庁がありました。現在、多賀城跡の入口にあたる南門の復元が進められております。多賀城跡は平城宮跡(奈良県)、大宰府跡(福岡県)とともに日本三大史跡に数えられています。平城京は奈良時代の日本の首都で、710年に藤原

京(奈良県)から遷都してつくられた都。また、大宰府は663年の白村江の戦いの敗戦後、九州を統治するために設けられた地方官庁です。今回、1300年を迎えるに当たり、私は公務の合間を縫って奈良の平城宮跡を視察してまいりました。そして、そこで働いている方や観光客の皆さんに大宰府や多賀城のことについて尋ねてみたところ、皆さん大宰府

のことは知っていても、誰一人多賀城のことをご存知ありませんでした。このことに私は大変ショックを受けると同時に、せっかくの素晴らしい歴史的文化遺産を生かし切れていないことに深く反省をいたしました。今年、多賀城跡にある多賀城碑が国宝に指定されるといふ幸運に恵まれました。創建1300年を契機に多くの方に多賀城跡の歴史的価値を知っていただけるよう全力を尽くす所存です。この機会に一人でも多くの県民の皆さんに多賀城跡を訪れていただきたいと念じております。

宮城県知事 村井 嘉浩

【写真の説明】1 くりこま夜市の顔である直径3メートルの提灯は地域おこし協力隊員が制作
2 Cafe かいめんこやの外観 3 くりこま夜市の様子 4 移住したデザイナーが作成したまち歩きマップ 5 アーティスト・イン・レジデンス活動でのパブリックアートづくりの様子



第18回

人が集まるまちづくり 移住者も輝く商店街へ

- 六日町合同会社
- 栗原市地域おこし協力隊
(六日町通り商店街シャッター開ける人!)
(栗原市)

本シリーズでは、県政運営の基本方針「新・宮城の将来ビジョン」において重要な視点として位置付けている「人づくり」「地域づくり」「イノベーション」「SDGsの推進」に焦点を当て、各分野で魅力ある活動に取り組む県内の企業・団体などを紹介しています。

移住者が増え続ける、栗原市の六日町通り商店街。その魅力を探るため、六日町合同会社の杉浦風ノ介さんと、地域おこし協力隊の三浦大樹さんにお話を伺いました。

― 移住・開業した経緯は？

京都市でお坊さんをしていましたが、アート系の仕事をする母と共に、20年前に栗原市に移住しました。

10年ほど経つてから、人々が集まる場所をつくりたいと思うようになり、平成27年に六日町通り商店街に「Cafe かいめんこや」を開業しました。その後、この商店街に移住・開業する方のお手伝いなどをしたと考え、六日町合同会社を立ち上げました(杉浦さん)。

― どんな取り組みをしているの？

移住者の開業支援

店主の高齢化などによる廃業が進み始めていた商店街ににぎわいを生み出そうと、移住者が開業しやすいまちづくりに取り組んでいます。支援に当たっては、地域おこし協力隊や商店会なども連携して活動しています。特に、地域おこし協力隊は地域の活性化に欠かせない存在で、六日町通り商店街で活動する地域おこし協力隊は「六日町通り商店街シャッター開ける人!」と称し、移住して開業したい方への空き店舗の紹介や商店街の方とのつなぎ役をしています。共に活動した甲斐もあって、約20店舗が新規開業しました(杉浦さん)。

移住者が増え続ける背景には、私たちの活動だけでなく、商店会の方々の優しさや移住者を受け入れる柔軟さがあります。いつも移住者を気にかけてくれ、困ったときにはアドバイスをくれたり、助けてくれたりします。新たなことにチャレンジするにはとても良い商店街ですし、何よりみんなが楽しそうにしているのが自然と人が集まるのだと思います(杉浦さん・三浦さん)。

「くりこま夜市」

毎年6月から8月までの第2土曜日に、六日町通り商店街を歩行者天国にして開催する「くりこま夜市」。移住者である私たちが40年以上続く伝統的なイベントを地域の方々と一緒に盛り上げ、これからも続けていきたいの思いから、

実行委員会との信頼関係を築きながら、イベントの企画・運営に携わってきました。今では、地域の出店やキッチンカーなど約70店舗が並ぶほか、神楽などの伝統芸能やDJ、アーティストによる音楽ライブなども企画し、地域内外から多くの人が訪れ、楽しんでくれています。実際に夜市を訪れ、その雰囲気や感銘を受けたデザイナーが移住した例もあります。その方は、六日町通り商店街の「まち歩きマップ」をデザインしてくれました(杉浦さん)。

新たな取り組み

昨年は、アーティストに一定期間、商店街に滞在してもらい、交流してもらう「アーティスト・イン・レジデンス」を実施しました。地方では、日常的に文

化的なコンテンツに触れる機会が少ないため、興味を持った高校生がアーティストに会いに来るなどの貴重なきっかけが生まれ、多様多様で自由な考えが育まれました(杉浦さん)。

最近では、地元の高校生に地域の魅力を再発見し、地元に愛着を持ってもらうことを目指した県の取り組みに参画し、地域コーディネーターとしても活動しています(三浦さん)。

― 今後の展望は？

移住者が働きがいや生きがいを持って住み続けられる地域にするため、仕事ができるコワーキングスペースやシェアハウスなどの環境整備を行うほか、子育て世代の移住者が安心して暮らせるよう、地域全体で子育てする環境づくりをしていきたいです



六日町合同会社代表社員 杉浦風ノ介さん(左)
栗原市地域おこし協力隊 (六日町通り商店街シャッター開ける人!) 三浦大樹さん(右)

私はとにかくこの街が好きです。画一化された社会は面白くないと思うので、この商店街ならではの文化を後世に残していきたいです。そして、人のつながりやコミュニティの魅力を感じていただき、移住者を増やしていきたいです(三浦さん)。

ページ

新・宮城の将来ビジョンシリーズ

PROGRESS ~ともに創ろう、躍進する宮城の未来~

- 2 ● 六日町合同会社
● 栗原市地域おこし協力隊(六日町通り商店街シャッター開ける人!) (栗原市)

特集1
4 あなたの備え、本当に大丈夫ですか
地震・津波対策、していますか?

特集2
8 宮城県慶長使節船ミュージアム
サン・ファン館リニューアルオープン!

特集3
10 救急医療を守るには
適正利用にご協力を!

県政ニュース
12 ごみを減らそう!
今日からできる環境に優しい暮らし

県政ニュース
14 県窓口での支払いが
キャッシュレス決済で便利になります!

15 おいしいものがたくさん!
まんぷくみやぎ

16 7つの地域から虹メール

18 お出かけガイド

20 みやぎのふるさと通信(角田市・七ヶ浜町)

21 県立施設インフォメーション

22 県からのお知らせ

みやぎの人口(令和6年6月末現在)

住民基本台帳人口/2,232,160人(前年同月比-16,155人)	
男/1,088,337人	女/1,143,823人
世帯数/1,051,418世帯(前年同月比+8,602世帯)	

宮城県は、令和6年能登
半島地震の被災地の復
旧・復興を応援します。



今号の表紙
笑顔あふれる六日町通り商店街の温かい輪

商店街の商店会長や移住後に商店街で働く皆さんです。取材当日に急きょ、表紙の撮影をお願いしたところ、商店街の杉浦さんと三浦さんの声掛けで、すぐに集まってきました。終始、笑い声や会話が飛び交う楽しいひとときで、商店街の皆さんの仲の良さや絆を感じました。